

第6回飼料用米を活かす日本型循環畜産普及交流集会

飼料用米育ち畜産物の普及拡大

生活協同組合パルシステム福島

大川 幸子

2014年3月22日

パルシシステムの取り組み

- 2006年：飼料自給率向上の取り組みをパルシシステムが産地に打診
- 2007年：ポークランド向けの飼料米を岩手県JA北いわて（軽米町）と秋田県JAかづのにおいて作付け開始
- 2008年2月：「日本のこめ豚」として商品企画
- 2010年：「こめたまご」「こめ鶏」商品企画
- 「日本型畜産」の実現のため、耕蓄連携会議や畜産生産者集会を開催し、部門を越えて課題を共有化してきました。
- 産地ではできるだけ輸入に頼らず、飼料米や未利用資源の飼料化に取り組んでいます。
- 2013年4月、こめたまごの全産地で、飼料米給餌率20%以上が可能となりました。

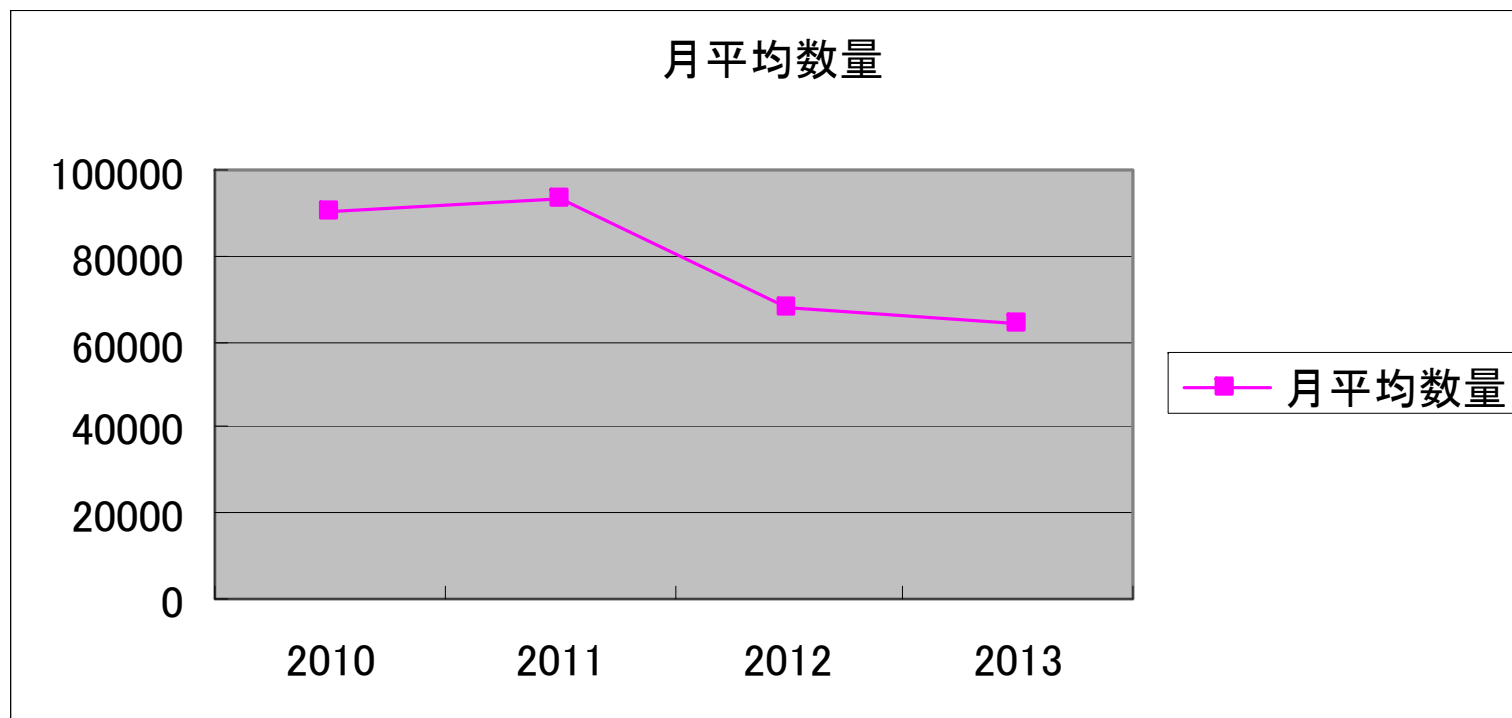


産地ごとの取り組み

	花兄園	神奈川中央養鶏	JAやさと	トキワ養鶏
飼料米産地	国産 (餌会社手配)	茨城 (JA茨城ひたち)	茨城 (JAやさと)	青森 (JAつがる弘前 JA津軽みらい、 JAおいらせ) 農家と直接契約
配合率	20% (玄米)	20% (もみ米)	20% (玄米)	30% (もみ米)
品種	指定なし	ホシアオバ	モミロマン	つがるロマン、 まっしぐら、 みなゆたか

2013年度4月時点

産直こめたまご利用状況



**利用拡大が、
飼料米栽培面積拡大=飼料米増産
=国産飼料自給力向上につながります！**

2010年・・・89,933パック／月
2011年・・・93,636パック／月
2012年・・・67,945パック／月
2013年・・・64,533パック／月

稲作農家が減反田や休耕田を 水田に蘇らせていきました



休耕田

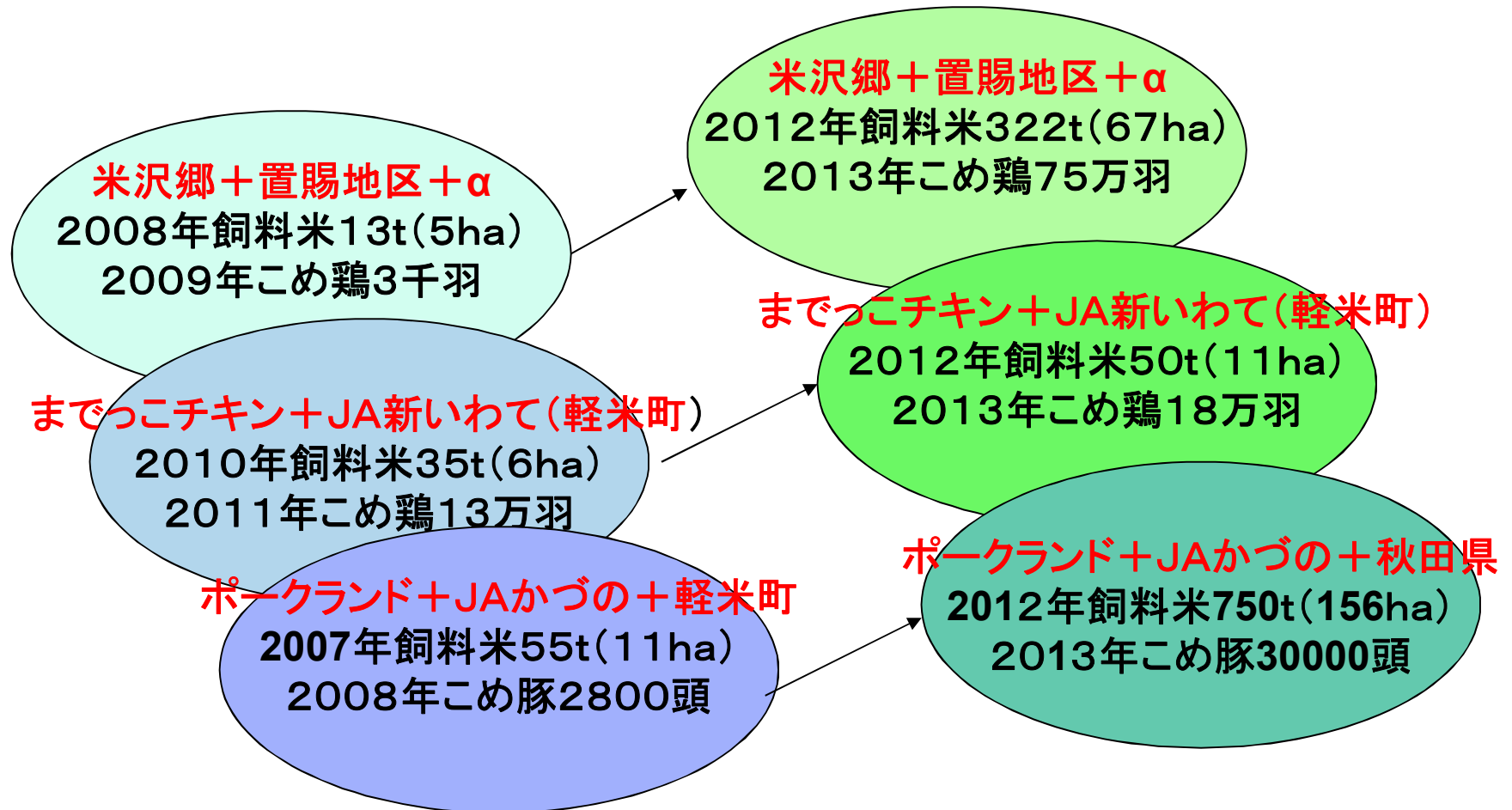


飼料米の田んぼ

商品特徴の比較

商品名	飼い方	NON-GMO	PHF	抗生物質 不使用	自給飼料
コア・フード平飼いたまご	開放鶏舎 平飼い	すべて	トウモロコシ	◎ 全期間	10%以上
産直こめたまご	開放鶏舎 ケージ	トウモロコシ、 大豆かす	トウモロコシ	○	飼料米 20%以上
産直たまご (赤玉またはピンク玉)	開放鶏舎 ケージ	トウモロコシ、 大豆かす	トウモロコシ	○	基準なし
産直たまご(白玉)	開放鶏舎 ケージ	トウモロコシ	トウモロコシ	○	基準なし

組合員の利用のひろがり
飼料米栽培面積拡大=飼料米増産
=国産飼料自給力向上につながっています。



**パルシシステムのお肉を食べることが
約400ヘクタールの遊休田や転作田が
水田の活用へとつながります。**

**東京ドーム約85個分：
1,880トンの飼料米**

- 2013年度、パルシシステムの提携産地は、
- 約1,880トンの飼料米を用意して、
- 約50,000頭の豚
- 約950,000羽の鶏
- 約500頭の牛を飼育する計画です。

おいしいと評判！でもそれだけじゃない 日本のこめ豚（ポーランド秋田県）



- ①養豚では、画期的な薬剤削減
- 肉豚1頭当の薬剤費などは全国平均の1/5まで抑えています。
- ②飼料米への大胆なチャレンジ
- パルシステム向け全量(3万頭)から農場全体(16万頭)を飼料米飼育へ転換
- ③アニマルウェルフェア(家畜の健康と生理に配慮)に沿った飼育方法にチャレンジ
- ウインドレス豚舎から開放型(室内放牧バイオベッド)豚舎へと転換中。国内大規模養豚でのこの転換は画期的！

おいしいと評判！でもそれだけじゃない までっこのこめ鶏（岩手県）



- 鶏特有の臭みのないあっさりした味が好評
- ①全期間、飼料に抗生物質は不使用
- ②飼育後期に動物性たんぱくを加えない
- ③光と風が入る開放鶏舎で飼育

おいしいと評判！でもそれだけじゃない 米沢郷鶏（山形県、宮城県）



- 飼育全期間に、85万羽全量に、飼料米＋規格外米投与。
- 2013年春から配合率を仕上げ期10%にUP！
- ①全期間、飼料に抗生物質は不使用
- ②飼料は、すべて非遺伝子組み換え
- ③光と風が入る開放鶏舎で飼育

おいしいと評判！でもそれだけじゃない

「山形コープ豚産直協議会」



- ・「養豚」と「稲作・畑作等」を組み合わせた有畜複合経営を発展させ、環境保全型・地域循環型農業に積極的に取り組んでいます。
- ・できるだけ薬剤に依存しない生産に取り組んでいます。

2012年夏から全生産者が仕上げ期に飼料米10%配合実施